

平成30年度滋賀県中小企業活性化施策実施計画の各事業の評価票【C・D評価事業】

施策分類	事業番号	事業名	事業概要	平成30年度の具体的取組内容	平成30年度の事業の目標 (数値目標または定性目標)	事業の評価			実施後の課題	施策利用者の具体的な声・意見等	①令和元年度の事業の継続・廃止 および ②令和元年度の事業実施にあたっての改善点	H30年度決算見込額 (単位:千円)	担当課	
						段階評価 (ABCD)	過年度評価							
							H 29	H 28						
8-2-ア	9	びわ湖環境ビジネスメッセ開催事業	BtoBに特化した環境産業総合見本市を開催し、環境産業の育成・振興を図る。	○びわ湖環境ビジネスメッセ2018の開催 [時期] 平成30年10月17日～19日 [会場]長浜バイオ大学ドーム [出展規模] 300企業・団体、500小間 [来場者数]35,000人	【目標】 会期中商談件数 30,000件	C	B	B	①会期中商談件数 20,176件 ②開催結果は出展者数272者、来場者数27,250人となり、顧客の新規開拓や製品・技術のPRの場となった。	・出展者および来場者が減少しているため、改めて出展者の確保と来場者の増加を図り、商談を活性化させることが必要である。	・目的であった顧客の新規開拓ができた。 ・いろいろな製品や人との出会いがあった。	①継続 ②次世代の環境ビジネスとしての期待を集めるバイオ素材関連分野に注目した主催者テーマゾーンを設置し、出展者および来場者の拡大を図る。	9,983	モノづくり振興課
8-3-ア	21	統計講演費	統計の有用性の理解や統計データを有意義に活用していたことを目的に、県民等を対象に、講演会を開催する。	○内容 ・統計データの利活用に関する基調講演 ○年1回、県内会場(200人程度の会場)	【目標】 参加人数200人	C	B	—	①参加人数 96人 ②参加者アンケートでは、「参考になった(「大変参考になった」を含む。)」との回答が100%(設問への無回答者は除く。)	・今後は別の切り口の事業等で周知、活用を図る。	・「統計」の重要性を再認識できた。 ・統計によるデータサイエンスがどう深化して使われているか、そして将来、どう有益なのかがよくわかった。 ・統計データの見方や活用法について新しい観点を得られた。	事業廃止	177	統計課
8-3-ア	25	将来の知財人材育成支援事業 <新規> <重点③>	子どもたちのモノづくり活動を通して、くふう・創造する力を育てるため、創意工夫やモノづくりに関心の高い積極的な子どもたちに活動の機会を提供し、将来の技術人材を育成する。	ものづくり出前活動(レスキューロボットづくり教室)の実施 2回	【目標】 参加者数 80人	D	—	—	①参加者数 16人 ②ロボットの組立てやプログラミングに興味を持って取り組み、ものづくりに対して理解を深めることができた。	・県内各地から広く参加者を集められるよう工夫が必要である。 ・限られた実施日数で、子どもたちがモノづくりに対する理解を深められるよう指導していく。	・良い経験になった。 ・ロボットの組立てや、プログラミングは初めてだったので貴重な体験になった。 ・2日間では時間が足りなかった。	①継続 ②事業の実施段階で、モノづくりに関心の高い子どもたちに対して、プログラミングを含めた高度な内容で行うこととしたため、受入可能人数(定員)を16名とした。令和元年度も定員を16名として実施する。	600	モノづくり振興課

施策分類	事業番号	事業名	事業概要	平成30年度の具体的取組内容	平成30年度の事業の目標 (数値目標または定性目標)	事業の評価				実施後の課題	施策利用者の具体的な声・意見等	①令和元年度の事業の継続・廃止 および ②令和元年度の事業実施にあたっての改善点	H30年度 決算見込額 (単位:千円)	担当課
						段階評価 (ABCD)	過年度 評価		取組の成果 ①数値目標の達成状況、定性目標の場合の 段階評価の説明等を記入 ②上記のほか、施策の利用者に対してどのような 成果や効果があったか、把握している範囲で記入					
							H 29	H 28						
8-3-ウ	69	知的所有権活用促進事業 <重点②>	モノづくり企業、大学、研究機関等の有する優れた製品や技術に関する知的財産について、産学官や企業間の交流・マッチングを促進し、県内中小企業による新製品の開発や新事業の創出、既存製品の高付加価値化等を支援する。	○知財ビジネスマッチング会の開催 ○開放特許シーズ集の整備・活用	【目標】 特許実施特許件数 4件	D	B	B	①特許実施特許件数 0件 ②特許実施特許はなかったが、秘密保持・商品化支援・用途開発支援等の実施特許に繋がる可能性が見込まれる案件が8件あり、継続してフォローアップを行っている。	・知財ビジネスマッチング会において紹介する開放特許(シーズ)の選定等 ・開放特許のWebシーズ集の充実	・知財ビジネスマッチング会において、弁理士に相談できる場があることを喜んでおられた。	①令和元年度の事業の継続・廃止 および ②令和元年度の事業実施にあたっての改善点	534	モノづくり振興課
8-4-ア	81	近江技術てんびん棒事業	県内企業のビジネスチャンスの拡大を図り、事業化を促進するため、県内企業を持つ優れた技術を、県内外大手企業に対して直接かつ具体的に提案(売り込み)する展示商談会等を開催する。	○経済団体と連携した、大手メーカーに対する展示商談会を開催	【目標】 情報交換件数(試作、見積依頼、名刺交換等) 300件	D	B	A	①H30年度は、様々な企業に開催受入れを打診し、開催寸前まで話を進めたが、最終的に断られるということが数件あり、結局は開催することができなかった。年度中の開催には至らなかったが、令和元年度7月に開催可能な企業を見つけ、開催の確約を得た。 ②-	・次の開催受入れ企業を見つける必要があるが、受入れ企業の都合を考慮すると十分な余裕をもって交渉を行う必要がある。 ・短時間で多数の人間と情報交換ができる場所が良い ・日頃取引のある会社であっても、これまで交流のなかった部署の方と交流ができるのが良い	①令和元年度の事業の継続・廃止 および ②令和元年度の事業実施にあたっての改善点	617	モノづくり振興課	
8-4-ウ	101	観光物産振興事業負担金 (観光物産情報発信事業等)	(公社)びわこビジターズビューローが実施する観光・物産振興事業に対して負担金を拠出する。	○下記の事業に対し、負担金を拠出 ・観光物産情報発信事業 ・教育旅行誘致事業 ・コンベンション招致事業 ・物産振興事業 ・首都圏観光営業推進事業など	【目標】 滋賀県観光情報ホームページへのアクセス件数 620万件	C	B	B	①滋賀県観光情報ホームページへのアクセス件数 399万件 ②滋賀県の観光名所や開花状況、イベント実施や観光キャンペーン等の広範な観光情報を発信することにより本県の認知度を高め、滋賀への誘客につなげた。	・大手検索サイトのアルゴリズム変更により、観光情報ホームページが検索結果上位に表示されなくなった結果、閲覧機会が減少した。	①令和元年度の事業の継続・廃止 および ②令和元年度の事業実施にあたっての改善点	73,412	観光振興局	
8-4-エ	103	滋賀県産業廃棄物減量化支援事業	産業廃棄物の減量化および資源化を促進するため、民間事業者が行う施設整備や、研究開発、販路開拓のための経費に対して支援を行う。	○産業廃棄物の減量化および資源化を促進するため、民間事業者が行う施設整備や研究開発、販路開拓のための経費に対する支援	【目標】 研究開発または施設整備で1件、販路開拓で1件	C	A	-	①施設整備で1件 ②産業廃棄物を減量化(廃水を5分の1に濃縮)することができた。また、その他の処理水についても冷却水に再利用することができた。	交付決定後において、事業が完了するよう事業者のフォローをさらに行っていくこと。また、補助金の周知について、文書の送付だけでなく、関係団体へ働きかけていくこと。	研究開発、施設整備、販路開拓と各ステージごとに補助メニューがあることで、産業廃棄物の減量化へのアクションの助けになる。	①令和元年度の事業の継続・廃止 および ②令和元年度の事業実施にあたっての改善点	5,033	循環社会推進課